

掛川市光ファイバ網整備計画

平成 2 3 年 3 月 3 1 日
掛川市

掛川市光ファイバ網整備計画

1 はじめに

本市では平成 19 年 12 月に策定した「掛川市超高速ブロードバンド整備構想」に基づき、光ファイバ網を中心とした市内全域のブロードバンド整備計画策定にむけ、国・県の補助スキームを考慮しながら、通信事業者の今後の事業拡大計画等についての聴取を行ってきた。

しかし、通信事業者によると光ファイバ網については、敷設済み地域での加入率の伸び悩みによる採算性の問題から、通信事業者による施設区域拡大については期待できない状況にあった。また、ADSL についても地形、電話局舎からの距離の関係等で、ブロードバンドとしての満足な通信速度（容量）が得られない中山間地域と、ADSL そのものが使えない地域が存在する地理的問題が顕在化している。このことから、市民が等しく情報化社会の恩恵を受けることができず、早期の基盤整備が重要課題となっている。

今や企業や工場などの事業所の経済活動にとって、光ファイバ網は不可欠な社会資本であることから、光ファイバ網の有無は単に一部地域のみにとどまる問題ではない。光ファイバ網の有無は、市の経済基盤をも左右するインフラとして認識されている。このことから、整備構想に基づき、ブロードバンドの基盤整備を着実かつ適切な方法で進めるために、光ファイバ網を主とした超高速ブロードバンドの整備計画を策定し、事業を進める必要がある。

2 現状と課題

(1) 周辺の状況

光ファイバ網整備の現状は、世帯カバー率全国約 90%、静岡県 84.4%、掛川市 59.1%であるが（平成 22 年 10 月現在）、「光の道」構想をはじめとする総務省の情報施策ビジョンの公表以降、不採算地域への整備進展が見られなかった通信事業者の方針にも少なからず変化が見られるようになってきた。

また、周辺域においても袋井市山梨地域が平成 22 年 6 月からカバーされ、続いて浅羽地域が平成 22 年 11 月にカバーされたことにより袋井市全域がカバーされた。また、磐田市でも、福田地域が平成 23 年 1 月にカバーされ、これにより旧豊岡村の一部を除くほぼ全域がカバーされることになった。このように当市においては、市内域でのデジタル・デバイドばかりか、周辺域でのデジタル・デバイドが健在化しており、その立ち遅れが懸念される状況となった。

(2) 地域ごとの現状と課題

本市におけるブロードバンド整備状況をみると、人口が密集し、投資効果の見込

める市街地及びその周辺地域において、光ファイバ網が整備されている（掛川局：掛川市街・上内田・南郷・曾我・西山口・栗本・城北の一部・桜木の一部）。光サービスの利用は、平成 22 年 12 月現在で約 11,000 加入、普及率（対電話加入比率）50 % を超えており、多くの市民・企業が利用している。これらの状況をふまえ、市街地同様に他地域においても積極的な整備促進が重要な課題と言える。

上記の地域のほか、比較的近くまとまった集住がみられる地域、大須賀第一・第二・第三（旧大須賀）、千浜・睦浜・大坂・土方・佐東（旧大東）、上内田・南郷・曾我・西山口・栗本・城北・桜木（旧掛川南部）においては ADSL が整備されている。しかし、当該地域の市民においても、すべての市民が ADSL によるブロードバンドとしての速度に満足しているわけではなく、光ファイバ網を希求する市民が多い。

高田・吉岡（旧掛川）、中（旧大東）においては、局舎からの距離による減速が著しいばかりか、ADSL 回線不足による新規契約ができない不感地域となっている。

また、市内北部においても、東山・原里・黒俣・倉真では ADSL サービスは提供されているが、局舎からの距離による減速が著しい地域が大半を占め、さらには原谷局同様 ADSL 不感地域も含んでいる。

（3）通信事業者によるサービスの現状と課題

市内におけるブロードバンド整備は、通信事業者による加入者獲得競争のもと、需要の見込みと整備コストの見合いにより市街地を中心に平成 13 年から整備が進められてきた。しかし、市街地から地理的に離れた中山間地においては、世帯数も少なく、通信事業者にとって採算性や投資効果が見込めない不採算地域と認識されており、ブロードバンド整備は進んでいない状況にある。これまで通信事業者による光ファイバ網整備要点と課題を整理すると以下のとおりとなる。

- ①一定の採算が見込めるエリアは既に敷設済であり、現在、敷設されていないエリアはすべて不採算地域と認識されている。
- ②敷設済地区においても加入率の伸び悩みもあり、通信事業者としては利用料金体系の工夫、CM・電話等による加入促進の展開により徐々に加入率は伸びてはいるが、新たなエリア拡大へのインセンティブにまではつながっていない。
- ③敷設は、一定のエリアを対象としたポイントという捉え方ではなく、ある程度まとまった面的整備、換言すれば局舎単位の整備でなければ難しい。

3 整備方針

これらの現状と課題をふまえ、平成 20・21 年度に実施されたアンケートや、平成 22 年度に開催された県主催のタウンミーティングなどでは、①早期にブロードバンド（光ファイバ網）の環境整備を期待する、②通信速度が速い光ファイバ網の整備を希望する、といった意見が多く聴かれた。

こうした対象地域の住民意見、目覚ましい技術進展の度合い、国・県の支援制度創設、周辺域での通信事業者による自主整備の進展を勘案しながら、光ファイバ網を主とした超高速ブロードバンド整備を進める。

現状での通信事業者の整備方針としては、局舎単位の整備が基本であることから、市の整備方針としても局舎単位での整備を基本とし、早期に光ファイバ網整備が実施できる通信事業者に対し、補助金（「静岡県光ファイバ網整備事業費補助金」、「掛川市光ファイバ網整備事業費補助金」）を交付することにより整備促進する。

加えて、光ファイバ網への加入率向上のため、さらには通信事業者による自主整備を促すべく、説明会等の開催による光ファイバ網の需要喚起を目的とした活用促進事業を実施する。

4 対象地区と整備スケジュール

(1)平成 23 年度 大須賀局・大東局・城東局・原谷局

旧大須賀町・旧大東町の掛川南部地区は、以前より地域住民ならびに地元企業からの整備要望が強い地域である。その中でも大須賀地区を最初に整備する必要として以下の理由があげられる。

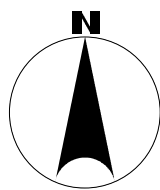
- ① 大須賀・大東・城東局を擁する南部エリアは、旧掛川の未整備の北部エリアに比べ面積が狭く事業効率が低いと判断されることから、通信事業者の自力整備に対するインセンティブを引き出し易く、南部エリアの一体的整備を整備事業の当初エリアとする。
- ② 大須賀局は、未整備地域の中では 4,100 回線と多くの回線数を有するものの、大谷・本谷地区等の面積の割に世帯数が少なく、採算面から整備が難しい地域も含まれていることから、同じ南部エリアの大東局と城東局に比べ事業効率が悪いと判断されている。このため、大須賀地区には辺地を含む事業として県の補助事業の対象地域となることから、大東局と城東局を通信事業者による自力整備を促すとともに、この地域については、自治体による補助事業での整備促進を図ることとする。

北部エリアの原谷局は、ADSL回線不足、回線速度の不足などの格差解消として早急な整備が望まれている地域であることから、南部エリアと同年度整備にむけ通信事業者による自力整備を要請していく。





(2)平成 24 年度 掛川三笠局・伊達方局・原泉局

掛川三笠局・伊達方局・原泉局については、平成 24 年度以降、速やかに整備を図るよう、継続して通信事業者への自力整備を働きかけていく。

掛川市光ファイバ網整備計画対象地域



—凡 例—

	= 光ファイバ網整備済地域
	= 平成23年度光ファイバ網整備地域(補助対象)
	= 平成23年度光ファイバ網整備予定地域
	= 平成24年度以降光ファイバ網整備予定地域

